

町制実施20周年記念

祝賀行事施行について

助役坂元左武郎

居ります。

趣旨
昭和八年八月一日、本村が鹿屋
垂水、高山、串良に統じて、内
之浦と共に町政を施行致しまし
てから満二十年の歳月を経まし
た。

この過ぎし二十年の跡を顧りみ
ますと、最初の十年は昭和六年
九月、柳原瀬に端を発した満州
事変が各種の事変を起して支那
事変へと発展し、遂に大東亞戰
争に突入するに至り、國家の総
力を戦争遂行のために結集せし
結果、町村固有の諸事業は、必
然的に最少限度に圧縮を余儀な
くされた時代であり、後半の十
年は、戦いに敗れ連合国の占領
下に前述の光明を失い、人心は
動搖し世相混沌として混乱防止
に苦慮した時代であります。

本町はその間よく町民一同と共に
刻苦勉励し以つて町政を維持
し今日に至つたのであります。

今や體和條約は発効し、我國も
独立国として再出発の日を迎
ました。時恰もこの年が、本町
の町制実施二十周年の記念すべ
き年に当ります。

私はこの苦難の歴史に鑑み且
つその体験を生し本年を境とし
本町が将来大隅南部の雄都とし
て、更に躍進せんことを町民一
同と共に祈念し、且つこれを祝
福せんがため記念行事を実施
致す次第であります。

祝賀行事の実施期日
十月二日（金）三日（土）の二
日に亘り、祝賀行事を行います
第一日（二日）の行事
A、歓迎祭
午前九時より大根占中学校に於
きまして左に該当する物故者に
慰霊祭を神仏両式によつて行
います。昭和八年八月一日當時職員
並びに職員の職に在り、在職
中死せし者
ロ、昭和八年八月一日當時職員
並びに職員の職に在つた者に
並びに職員の職に在り、在職
中死せし者
この運動会を二時頃までに

各種の農機具を展示致します
予定でありますので、本町の
農機具の改良に役立つことと
思つて居ります。

十周年記念町内官署野球大会
の優勝戦が行われます。又素人
の自慢戦後、午後七時より
午後二時半頃（運動会終了後）
運動会がその時間までに終了し

会終了後、高等学校々庭におい
て町野球選手権の町政実施二
の野球、排球（女子）大会が行
われます。

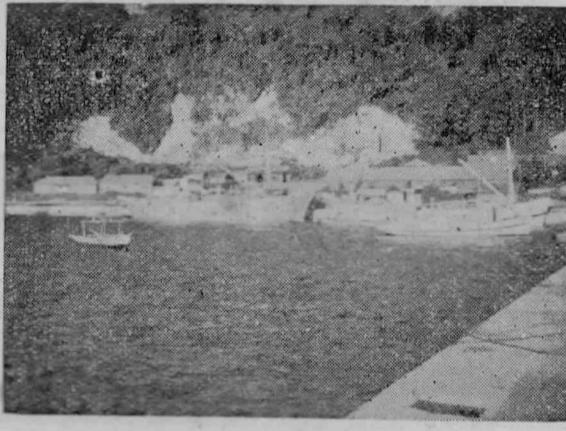
これら諸種の計画も畢竟町民皆
の協力がなければスムーズ

に、然も愉快に遂行出来ません
ので、何卒皆様の絶大なる御協
力を御願い申し上げる次第であ
ります。

十月四日（日）には、南日本新
聞社主催にて、本町の町制実施
などの式場において各種功労者の
表彰も行われる予定であります。

この式場において各種功労者の
表彰も行われる予定であります。

大根占進躍港



町民体育大会

プログラム

競技種目

参加対象

記回数

昭和28年9月25日

町政二十年を探る

議会事務局長 矢野清

として、二十年になるものがあります。日蔵大根占町の測量は、何と云つて、滋々続々と、いつては、常に測量の上継ぎます。」
「一等の活潑な町内自動車道も、終るのではありません。」
「であります。」
「これは、是非町内に呼ばれて、お聞きください。」
「開さくの必要はないのです。」
「に呼ばれて、いふ。」

時町有田地一町を充分して之を運用するの資金を運用することになり、この議会で「青年学校問題」としては委員を推薦し、地主の戸山方面、小野川方面で出て決定迄の手続を終ったが、丁度十三年と十四年七月工事費一千万円で契約したのは翌年四月であるが結局現在補地が現在の堤防工事に當り百五十円あります。

議会で町長が皇室の賛助を請ひ、臨時耕作地を出で来四ヶ町にて、相当復旧に力をこめて、何しろ戦争の結果、土木など多くの資金の支拂ふことをなかつたのであります。この事項を決議するに當り、大根銀を國庫に納むる旨の協力方を認めたのであります。

存貯 はが後年決
じゆま な重の 月の 年 年 ま議 ま持道とによ中、動つ重 展び面々言失中のま文

町制二十周年記念 大根占町の展望

昭和二十八年八月一日は、本村
が町と改めてから、丁度満二十年
に当ります。この過ぎし二十年間
の本町の財政経済、産業、土木、
教育その他の諸問題について、順
次その変遷を辿つて見たいと存じ
ます。

とし、政府は事變処理に大なる時代であり、これが爲、全國的農村恐慌からようやくインフレへの傾向を示はじめた年であります。尚都市農村に、沢山の失業者がいたのであります。

そこで政府は、府縣市町村の事業として、各種の土木事業を起し、これらの方々を雇入れ、その救済を企図致しまして、市町村に補助策の、方式を探つたのであります。ですが、結局補助のみでは不足し、町村はその補填策として、借り入れ金を貯めるの日々で到底いきません。本町も當時農村救済策費として、八千円を借り入れて居ります。今の金にしては、大した額ではありませんが、現在の物價指數を當時の三百倍として換算致しますと、二四〇余万円になります。当時農林省に経済更正部が創設され、農山漁村経済更正運動が展開され、恐慌対策として農村の負債整理、農村工業の奨励が行われたのであります。これが等は全て町村の負担のもとに実行されましたので、本町の財政もこのまゝから肩の大きな重担を負ひ切つて、

根占町の展望

のようですね。

歲入予算(皇昭和27年)										
	昭和8年	比%	18年	比%	21年	比%	25年	比%	27年	比%
財產收入	15,915円	0.137	9,080	0.039	69,754	0.068	1,100,000	0.031	11,474,248	0.12
使用料手數料	2,055	0.017	1,644	0.007	5,926	0.005	500,560	0.014	785,360	0.00
使國庫支出金	18,039	0.155	74,482	0.327	394,508	0.385	7,757,047	0.221	36,362,422	0.40
縣寄經費	12,893	0.111	826	0.003	60,530	0.059	601,388	0.017	689,606	0.00
稅金	924	0.007	4,007	0.017	201	0.001	1,009,912	0.028	823,860	0.00
越收	252	0.002	28,863	0.127	115,475	0.112	500,970	0.014	2,559,500	0.03
稅員平	19,482	0.167	18,476	0.060	29,925	0.029	15,000	0.004	386,879	0.00
衡交付金	34,433	0.295	95,843	0.420	348,458	0.341	9,939,079	0.283	11,277,152	0.12
金	12,757	0.109					3,500,000	0.099	12,606,000	0.14
計	116,750	100	228,221	100	1,024,777	100	35,082,251	100	89,751,027	100
歲出予算										
	昭和8年	比%	18年	比%	21年	比%	25年	比%	27年	比%
議會費	683円	0.005	735	0.003	8,760	0.008	840,358	0.023	1,411,750	0.01
役員費	20,424	0.174	49,457	0.216	250,788	0.244	4,305,776	0.122	9,002,400	0.1
社團費	90	—	1,846	0.008					40,103,400	
土地費	10,360	0.088	3,700	0.016	39,528	0.038	5,514,240	0.157	317,240	0.44
木衛費	201	0.001	742	0.003	47,989	0.046	355,391	0.01	6,226,610	0.00
生活費	608	0.005	39,684	0.173	248,727	0.242	1,653,744	0.047	1,021,870	0.06
經濟費	1,104	0.009	3,620	0.015	6,800	0.006	4,421,922	0.126	2,082,400	0.01
消防費	4,533	0.035	4,765	0.020	68,106	0.066	1,222,924	0.034	363,350	0.02
產業費	10	—	93	0.0004	9,395	0.009	285,570	0.008	100,500	0.00
生產費	145	0.001	1,136	0.005	3,750	0.003	207,330	0.005	40,000	0.00
營業費	200	0.001	2,900	0.012	9,510	0.009	40,000	0.003	18,561,530	0.0004
調查費	52,813	0.452	77,850	0.341	158,790	0.154	12,181,530	0.345	714,997	0.20
統計費	16,750	0.143	14,980	0.065	80,989	0.079	1,440,529	0.041	4,001,980	0.007
子教費	157	0.001	14,506	0.063	46,280	0.045	2,444,110	0.069	5,803,000	0.04
諸社費	8,702	0.074	12,207	0.053	45,365	0.044	218,836	0.006		0.064
公債費	116,750	100	228,221	100	1,024,777	100	35,082,251	100	89,751,027	100

満州事変が漸くこう着状態となり、資本主義的色彩は相当に濃厚化してこれら都市に集中し、農村経済は急速に発展を遂げ、経済力は本町も当然この例をまねかねなかつたのであります。昭和十一年度によつて農村対策がとりあげられ、農村税の軽減のため便用されたのであり、その途端については、政府の嚴重な管理のもとあります。これは当時過重であつた町村税の軽減のため便用されたのであります。この対策として、同年十一月、我が国で調査的の現在の平衡交付金の前身とも言われる臨時町村補給金制度が生れたのであります。その後この制度は、数年経過したかと思われます。こうして町村財政は、益々國にたよつて行かねばならぬ様になつたのであります。昭和十二年七月、日支事変が勃発するに及び、当時増加しつゝあつた地方財政の、繕修政策を行つたのであります。軍事国庫費、軍用道路費、労務需給費、物價調整費等々戰時体制下に係る費が増加し、然もこれらの多くは、町村費にその負担を強制されたのであります。これらの多くは國税又は縣税が優先される、又補給金制度が配付税として与えられるようになります。したがつて、町村財政は逆に増高し、本町の予算も、昭和八年当時の三倍に膨張して居ります。

の制定は、大政施行令に基づいて、地方財政問題は、各々の地方行政によって、大巾の自治権をもつて、地方税として追徴課税、告税、授客税、立税として徴収されました。

事では、昭和二十六年、昭和二十七年度を始め、改修中であります。年度、百万円を投ますので、一處完たのであります。が補助を得て、昭和三十一年に流失したのであります。の問題がとり、昭和二十六年、昭和二十八年、昭和二十九年に、田畠がなくなりましたのであります。居ります。事では、昭和二十六年、昭和二十七年度を始め、改修中であります。年度、百万円を投ますので、一處完たのであります。が補助を得て、昭和三十一年に流失したのであります。の問題がとり、昭和二十六年、昭和二十八年、昭和二十九年に、田畠がなくなりましたのであります。居ります。